音頭取金の団扇の裏は銀　趙栄順

【長刀鉾】

長刀鉾蕪村住みにし町を往く　近藤沙羅
長刀鉾豊穣の雨浴びながら　同
人を待つ長刀鉾の立つところ　原田耕治
長刀鉾ひとつ揺らぎて動き出づ　萬燈ゆき
高々と長刀鉾をとんぼとぶ　横山幸子
今年また長刀鉾にまみえけり　斎藤真知子
長刀鉾飛行機雲のすぐそばに　清田喜代子
長刀鉾命の綱の見え隠れ　山根雪
長刀鉾廻り切つたるところかな　橋詰育子
長刀鉾しなひて天をわたりゆく　藤原智子
まほろばや長刀鉾の立ち上る　諏訪いほり
長刀鉾千年万年囃すべく　同
長刀鉾見えそめしよりはるけしや　澤田美那子
我もまた長刀鉾につき行かん　小川もも子
長刀鉾この世の厄を払ひつつ　木下洋子
切り進む長刀鉾や京の空　井上次雄
鳩舞ふや長刀鉾の空青く　佐々木まき
仮の世の長刀鉾に登りけり　山田蛍草

上がることかなはぬ長刀鉾仰ぐ　金澤道子
長刀鉾すつくと雨を打ち払ふ　阪ひとし
まさしくや長刀背負ふ長刀鉾　東一爽
長刀鉾俳諧の鬼これにあり　大谷弘至
雨の粒長刀鉾にそうて落つ　長谷川櫂
長刀鉾切尖のまづ夕映えて　同
長刀鉾ぐらりと揺れて動き出づ　同
長刀を揺らして鉾はうるはしき　同
往きあぐむ長刀鉾を囃しけり　同
長刀鉾轢きしだかるる何々ぞ　同
炎天へ長刀鉾は揺らぎ出づ　同
長刀鉾灼けて長刀立てゐたり　同
長刀鉾からくれなゐのただならね　同
鳴神も長刀鉾を囃しけり　同
長刀鉾道のはたてに現れつ　同
長刀鉾はるか月鉾みやりつつ　同
長刀鉾扇の風に廻りけり　同
長刀鉾都の空を欲しいまま　同
長刀を揺らして鉾は近づき来　同
身を揺りて長刀鉾はゆきなづむ　同

長刀鉾東西南北みなはるか　同
長刀鉾の切尖みゆる夜空かな　同
雲の中ぬつと長刀鉾はあり　同
鉾いろいろ長刀鉾にしたがへり　同
長刀鉾この世をすぐるごとくすぐ　同
長刀鉾太陽の前に曳き出しぬ　同
やや反りて長刀鉾の美しき　同
長刀鉾いろいろの紐おもしろや　同

【一の鉾】

乾坤をよぎるくれなゐ一の鉾　近藤沙羅
さまざまな山鉾あれど一の鉾　山田蛍草
須佐之男命よろこぶ一の鉾　長谷川櫂

【月鉾】

月鉾の出づるは山のあはひかな　季吟
月鉾や児の額の薄粧　曽良
月鉾や人声起る山かづら　暁台
月鉾の月しらしらと朝空に　本橋康子
月鉾の月桐箱に納めあり　同
雨あがり月鉾の灯の涼しさは　岩根壽美
月鉾へ上り都を眺めけり　野田翠

月鉾や縄美しく巻き上げて　木下洋子
雲とほる月鉾の月翳らして　藪本文子
月鉾に宵の明星添ひにけり　中村汀
月鉾をまるごと洗ふ大夕立　同
雨のあと月鉾に灯のともりけり　斎藤真知子
月鉾の月もかくれて雨夜かな　横山幸子
涼しさや月鉾の上にけふのぼり　潮伸子
月鉾も長刀鉾も夕立かな　橘詰育子
月鉾の提灯ともる白雨かな　川村玲子
月鉾に昇り応挙の草花見ん　坂元初男
月鉾に登らんとして列の中　澤田美那子
月鉾に登ればはるか西東　同
就中月鉾ぞよき破風飾　同
月鉾は十一トンやはしけやし　本谷厚子
月鉾や月一文字すずやかに　吉澤花
月鉾や今宵の月を友として　上田悦子
月鉾に登るや長き列につき　大場梅子
月鉾やゆかしき月を宿したる　水岩瞳
にぎやかに囃して上げん鉾の月　上田忠雄
なにはともあれ月鉾を仰ぎ見る　山本華子